

「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業

背景
と
目的

◇全日制・定時制・通信制課程の生徒の進路保障に向けた学びの機会のネットワークの構築

本県ではこれまで遠隔教育の実践と拡充を図ってきたが、本事業では遠隔授業や通信教育を活用しながら、教育資源に限りがある中山間地域の小規模高校を中心に、全日制・定時制・通信制課程の生徒や不登校生徒の進路保障に向けた取組を推進し、配信科目の拡充等生徒の学びの機会のさらなる充実を図る。また、遠隔教育により専門教員からの授業や習熟度別授業を実現し、生徒の学びの質の保障を図り、遠隔授業における工夫や実践について、県内外の教員との情報交換や実践研究を進める。

■実施体制

中心拠点：遠隔授業配信センター

構成校：室戸高校、中芸高校、嶺北高校、佐川高校、窪川高校、禰原高校、大方高校（全日制・通信制）、宿毛高校、清水高校

■遠隔教育に関する取組

I 遠隔教育（生徒の学習ニーズに応じた授業・補習の配信）

・令和7年度より、新たに地理歴史を配信、大学進学対策補習では新たに情報Ⅰを配信【遠隔授業】

・構成校9校に対し、地理歴史、数学、理科、英語、情報の計23講座、週68時間を配信

・生徒の自律的な学びを促すアプローチの研究、知見を基にした暗黙知の文章化による共有【遠隔補習】・大学進学対策やグループワーク型受験対策の実施

・英語資格試験2次対策、公務員試験対策、危険物取扱者試験対策の実施

・補習の充実（令和8年度よりITパスポート試験対策を追加）

【キャリア教育講演会】3回実施 【地域課題探究成果発表会】14校の参加

II 受信側体制の研究

・受信側立会者における「巡回型」の実施（3校39回）

・T2型遠隔授業の質の向上につながる具体的な支援の整理

III 学習効果向上のためのオンデマンド教材、アプリ等の活用

■今年度の成果と今後の課題

I 遠隔教育

成果 ○受信側立会者における「巡回型」を実施、成立条件を整理

○遠隔授業および遠隔補習の拡充、暗黙知の文章化

課題 ▼「巡回型」の実施回数39回は年間遠隔授業時数のわずか1.1%

→受信側立会者における「巡回型」の研究の継続

▼自律的（自立的）な学び、主体的な学びへの移行

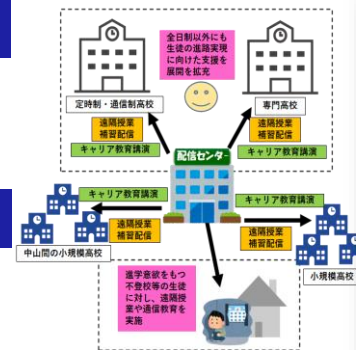
II 通信教育

成果 ○オンデマンドを活用した講座や教育課程外の遠隔補習等を受講できる環境を整備

○病気療養中の生徒に加え、不登校生徒への支援が進んだ。その支援に課題提出などの通信教育を活用する学校が増えた。

課題 ▼学習効果向上のためのオンデマンド教材の作成、自立的学習ができる環境の整備・充実

▼不登校生徒等への支援の継続



■通信教育に関する取組

I 教育課程外の通信教育

オンデマンドのキャリア教育講演会を受講

II 不登校生徒等への支援

教育課程内の遠隔授業や通信教育を各校にて実施

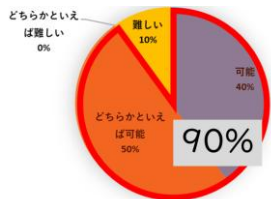
学校からの希望に応じて、教育センター及び遠隔授業配信センターが支援できるよう体制を構築、周知

→各校での支援：5校6名（構成校：2校）

「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業

遠隔授業実施の様子

■高知県の授業スタイル（配信拠点型：構成校9校に対し、地理歴史、数学、理科、英語、情報の遠隔授業（計23講座、週68時間）を配信）

目的	難関大学への進学等の生徒のニーズに応じた授業	免許外指導の解消
教科・生徒数	教科：地理歴史、数学、英語、理科 人数：1～5名（希望者）	教科：情報 人数：5～21名（全員）
受信側立会者の支援	<p>生徒の実態を把握しやすいため、出欠や安全管理を中心に、必要最小限の支援で授業が可能 → 「巡回型」の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講人数の設定 → 少人数（2～5名以下） ・緊急時の対応方法の検討 → 内線電話やトランシーバーの活用、1人1台端末の持参 ・校内における対応方法等の共有 → マニュアル等の作成、周知 	<p>教室全体への配慮が必要。実習を伴うため、積極的な支援が必要。 → 大人数のT2型等の効果的な支援の研究</p> <p>【支援の具体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信や機器トラブルへの迅速な対応、授業に集中できる環境づくり ・生徒の表情や反応、学習の進捗を見取り、個別の声かけ ・生徒の困り感や進捗、通信状況を配信教員と共有
教職員・生徒の感想	<p>問い：「巡回型」での対応は可能か（アンケートより：遠隔授業支援員10名回答）</p>  <p>遠隔授業支援員アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が落ち着いて受講しており、特段の声かけを必要としないから。 ・連絡体制が確立している。 ・生徒・配信教員双方の不安への対応が必要。 ・生徒の実態による。 <p>配信教員ヒアリングより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に問題はない。生徒の実態による。 ・通信不良等の場合、いてくれると安心する。 <p>生徒ヒアリングより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に問題ない。 <p>生徒の実態や授業状況、支援体制が整っている場合に有効であり、常駐型との使い分けが重要</p>	<p>生徒アンケートより（情報のみ受講生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声が聞こえなくなった時など、支援教員が指示をしてくれて助かった。 ・カメラやマイクの接続が切れた際にすぐ接続し直してくれた。 ・分からないことがあった場合に、すぐに協力して解決してくれる。 ・支援教職員のおかげで、分からないプログラミングが解けた。 <p>遠隔授業支援員アンケートより（情報のみ担当教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の操作が分からない生徒がいるときのサポート ・実習等でうまくいっていない生徒への声かけや説明、内容のフォロー <p>大人数 ⇒ ICT等の学習環境を整える支援や学習内容に関する支援が多い。 少人数 ⇒ 教室内での声かけや見守り等の学習環境を整える支援が多い。</p> <p>ICT等の学習環境を支える支援が多く求められており、配信教員との情報共有や授業内容に関する専門的な個別支援が有効</p>

配信側の様子



受信側の様子



生徒の声（アンケートより）

【授業を受けて学習意欲が高まったと回答した理由】

- ・専門の知識を持つ先生の話聞ける
- ・学校の授業よりも高度な内容を学べる
- ・少人数のため落ち着いて授業を受けられる

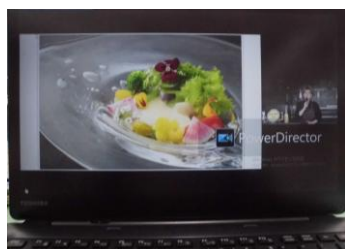
「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業

通信教育実施の様子

■オンデマンド教材の活用（キャリア教育講演会）

- 第1回 1校1名
 - 第2回 3校19名
 - 第3回 2校7名
- のべ6校27名、うち構成校2校3名

<第1回 オンデマンド>



<第2回チラシ>



生徒アンケートより

【第1回】キャリア教育講演会

- ・修業の時期は働き詰めでしんどいと分かった。
- ・留学して学ぶという事はその地域の言語を学ぶ事、二つの事が学べるのだと思った。

【第2回】キャリア教育講演会

- ・人間て案外何とかなんかできることを知れた。
- ・夢を持っているけど、「そこで叶えて、終わり」ではなく、「そこから先の『夢』や『やりたいこと』を持っていく」というように繰り返していきたいと思う。
- ・世の中に広めるためにどうするのか考えた際に、ポスターを作って貼ったら良いと考えたけど、「パロディを作ってその動画を流す」という考えが私にはできなかつたので、印象に残っている。

オンデマンド教材作成（撮影）の様子



■不登校生徒等に対する支援

①構成校への広報・訪問説明（学校向け、教職員・生徒・保護者向け）

不登校生徒に対する遠隔授業の実施について

本事業は、各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業の一環として、遠隔教育や通信教育の活用を通じて、学びの機会を拡大し、学習意欲の向上を図ることを目的として実施しています。

●実施の趣旨
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

●実施の目的
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

●実施の趣旨
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

●実施の目的
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

多様な学習ニーズに対応した補習（遠隔補習、添削補習）の実施について

生徒および保護者の皆さまへ
本事業では、各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業の一環として、遠隔教育や通信教育の活用を通じて、学びの機会を拡大し、学習意欲の向上を図ることを目的として実施しています。

●実施の趣旨
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

●実施の目的
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

多様な学習ニーズに対応した遠隔補習・添削指導の実施について

教職員、生徒および保護者の皆さまへ
本事業では、各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業「高知版学びの機会充実ネットワーク」構築事業の一環として、遠隔教育や通信教育の活用を通じて、学びの機会を拡大し、学習意欲の向上を図ることを目的として実施しています。

●実施の趣旨
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

●実施の目的
不登校生徒等に対する学習機会の提供、学習意欲の向上、学習成果の向上を図る。

②不登校生徒等に対する対応実績（令和7年度県調査及びヒアリング調査）

- ・オンライン授業 2校2名
 - ・課題提出（通信教育） 3校3名
 - ・オンライン授業と課題提出 1校1名
- うち、構成校 2校
オンライン授業 1校、課題提出（通信教育） 1校

③前年度調査との比較

生徒の状況	R6年度	R7年度
病気療養中等生徒に対応	83.3 %	16.7 %
不登校生徒に対応	8.3 %	50.0 %
特別な事情を有する生徒に対応	8.3 %	33.3 %
対応方法	R6年度	R7年度
遠隔授業（オンライン）	91.7 %	41.7 %
通信教育（オンデマンド、課題提出）	8.3 %	58.3 %

不登校等生徒や特別な事情を有する生徒への遠隔教育や通信教育の対応が進む